

V 関係行政機関編

この編は、地区内の関係する警察、消防署・消防団、郵便局、地区センター・地域ケアプラザ、農協、保育園・幼稚園などの関係代表者からの寄稿をいただき、限られた紙面ではありますが、時代を遡りその一端をご紹介します。



1. 神奈川県警戸塚警察署の紹介

(1) 戸塚警察署からのご挨拶

戸塚警察署長の佐藤でございます。

このたびの「川上の100年史」の編纂をお喜び申し上げますとともに、編纂に携わった方々のご労苦に対して敬意を表します。100年史の中で、戸塚警察署の沿革を紹介していただきましたが、非常に長い歴史と伝統のある警察署であり、私で第90代目の署長となります。戸塚区の治安維持を預かる責任者として、その責務の大きさに改めて身の引き締まる思いであります。



戸塚警察署 佐藤政宏署長

さて、「旧川上地区」は、古くは鎌倉道や大山道が通るなど、交通の要衝として栄え、今では国道1号線と環状2号線が走るなど、交通量の多さという点では変わりありません。

一方、全国的な傾向である少子高齢化対策として、地域で子どもを守り、お年寄りを支える活動に重点的に取り組まれているのは、長年地域で培われた伝統とも言えるものであり、警察署長としては非常に心強く、日頃の皆様方のご努力に感謝申し上げます。

最後になりますが、今後も署員一同力を合わせ、地域の皆様方のご協力を仰ぎながら、交通事故の防止、犯罪の抑止及び検挙に努めてまいりますので、引き続きご支援をお願いいたします。

100年史編纂まことにおめでとうございます。

(2) 現在の戸塚警察署

都道府県警察 神奈川県

管轄区域 横浜市戸塚区全域

課数 11

交番数 12

駐在所数 0

所在地

神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 3158 番地の 1



撮影 平成30年1月

引用：戸塚警察署HP

(3) 沿革

- ・明治5年(1872)9月19日

藤沢警察署から邏卒(巡査3名)が派遣され、戸塚駅出張邏卒屯所が設置されたのが始まりであります。*邏卒とは明治初年、各都道府県で警察の任にあたった者
ここで言う、戸塚駅とは現在の東海道線の戸塚駅ではなく、明治新政府による大区小区制で吉田・矢部両町ともに17区5小区となり、戸塚駅と称するようになりました。東海道鉄道 横浜、国府津間竣工で戸塚停留場設置は明治20年(1887)7月になりました。

- ・明治9年(1876)12月 戸塚駅邏卒屯所を戸塚駅巡査屯所と改称
- ・明治10年(1877)1月 戸塚駅出張邏卒屯所を、藤沢警察署戸塚分署に改称
- ・明治11年(1878)6月 戸塚民有地を警察用地として買い上げました。
- ・明治20年(1887)1月 藤沢警察署戸塚分署が昇格して鎌倉郡警察署が発足
- ・明治26年(1893)12月 戸塚警察署と改称
- ・明治42年(1909)1月 戸塚警察署新築落成

引用：戸塚区史（区制50周年記念）

(4) 関東大震災の惨事

大正12年(1923)9月1日、関東地方に大地震発生、戸塚警察署管内の戸数4,874戸、人口31,619人の内全焼3、全壊1,549、死亡79人、負傷468人の被害であった。震度の一番激しかったのは戸塚町、川上村でいずれも8割以上の家屋が全壊、あるいは半壊し、戸塚町役場は新築中で1階がつぶれ、2階がすっぽり下に落ちてしまった。杉山町長は避難した裏山が崩れ、その下敷きになって逝去された。第一国道（旧東海道）では、川上村の両側の家が軒並み倒れたため道が塞がれて交通は一時途絶えてしまった。更に戸塚町下郷の国道並木の松が数本倒れ道は全く塞がれてしまったが、陸軍工兵隊の出勤や青年団の協力で復旧した。

- ・大正12年(1923)10月30日

戸塚警察署も震災により倒壊のために戸塚区4022の仮庁舎へ移転

- ・大正15年(1926)5月 戸塚警察署の新庁舎落成

引用：戸塚区史（区制50周年記念）

(5) 戦中の時代

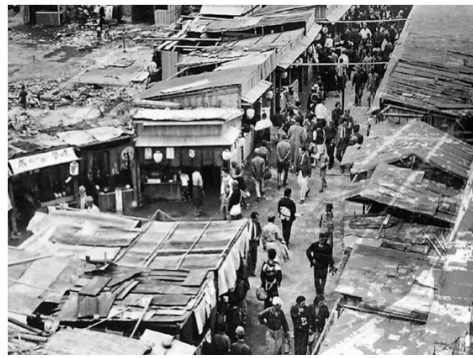
日華事変の長期化と国際情勢の緊迫化に伴い、あらゆるものの総合的な統制運用と、国民の愛国心を基調とするために、昭和13年4月歴史的な国家総動員法が制定され不穏分子などの取り締まりや、言論・集会・結社などの取り締まり業務が加わり、また防空体制強化が叫ばれ警察活動の主要な任務になりました。

- ・昭和8年7月

戸塚署管内1町8か村の灯火管制の予行演習を、午後8時から10時まで決行。警察活動にも戦時色が強くなりました。

- ・昭和15年

この年から米、味噌、マッチ等10品目の切符制が導入されたのに続き翌年4月から米の配給制（一人2合3勺）が実施され、国民は闇物資の買い出しに奔走しました。中でも豊かな農村地帯だった戸塚は買いあさりの標的になったようで、取り締まりにあたった戸塚署経済保安係の多忙ぶりがその頃の新聞にしばしば紹介されました。



当時の買い出し風景写真（場所不明）

- ・昭和16年12月3日の毎日新聞によると日曜日には東京、横須賀などから3,4百人が押しかけ、買い取ったさつまいも、里芋をリュックに詰め込んでバスに持ち込むために悶着が絶えず、警察署の経済保安係は、この取り締まりで他の仕事が手につかない有様と報じていました。
- ・昭和17年1月の神奈川新聞は「日曜の早朝、一斉取り締まりを行い、さつまいもの配給統制規則の違反者(96人)を検挙」と報じています。

引用：戸塚区史（区制50周年記念）

（6）戦後の時代

- ・昭和23年 3月 警察制度の改革に伴い、横浜市戸塚警察署となる
- ・昭和23年 4月 戸塚交通安全協会の発足
- 5月 戸塚警察署不動坂派出所設置
- ・昭和24年 2月 戸塚警察署駅前派出所設置（現 戸塚駅西口交番）
- ・昭和30年 7月 警察制度の改革に伴い神奈川県戸塚警察署となる
- ・昭和32年 4月 戸塚区防犯協会の発足
- ・昭和36年 7月 戸塚警察署柏尾駐在所を戸塚警察署柏尾派出所へ切替え
- ・昭和38年 3月 戸塚警察署柏尾派出所を上柏尾町490-1に移転
- ・昭和40年 4月 戸塚警察署戸塚駅東口派出所設置
（昭和55年7月、戸塚駅西口派出所へ統合運用）
- ・昭和42年 10月 戸塚警察署平戸派出所設置

- ・昭和45年 4月 戸塚警察署庁舎、戸塚町3158-1に移転
- ・昭和58年 1月 戸塚警察署東戸塚駅前派出所設置
- ・昭和60年 3月 戸塚警察署舞岡派出所設置
- ・平成2年 4月 戸塚駅東口派出所 再設置

引用：戸塚警察署資料、戸塚区史(区制50周年記念)



不動坂交番



柏尾交番



平戸交番



東戸塚駅前交番



舞岡交番

(7) 戦後川上地区の主な出来事

・上柏尾町の踏切事故……

昭和36年1月13日(金曜日)午後4時20分頃、横浜市戸塚区上柏尾の秋葉踏切(無人)で、ダンプカーが踏切内に進入したところ、まず伊東発東京行き上り湘南電車と衝突した。この衝撃で上り列車は約40メートル先で1両目が脱線し、下り線路内に飛び出した。そこへ東京発久里浜行横須賀線下り列車が突入。湘南電車の乗客7人が死亡し、94人が負傷した。ダンプカーの運転手は無免許であった。

・東海道秋葉無人踏切で衝突事故……

昭和36年8月14日夜7時34分頃、秋葉踏切に進入したミキサー車が上り特急<はやぶさ>と衝突。ミキサー車は30メートル引きずられ道路脇の草むらに放りだされ、ミキサー車の運転手は頭などを打ち即死、乗客8人が負傷。

・無人踏切事故を受けて自動遮断機が設置

昭和36年9月23日、国鉄は相次ぐ事故で秋葉無人踏切に自動遮断機が設置された。

引用：戸塚区史(区制50周年記念)

2. 戸塚消防署の発足

(1) 戸塚消防署からのご挨拶

～ 川上の 100 年史に寄せて～子供たちが安全で安心して暮らせる街を目指して～

「川上の 100 年史」記念誌の刊行、誠におめでとうございます。心よりお喜びを申し上げます。また、日頃より、地域の皆様には、防火・防災・減災にご理解とご協力をいただいておりますことを御礼申し上げます。

さて、近年、全国各地で地震や台風などによる大規模な災害が発生し、甚大な被害をもたらしています。この横浜でもいつ、大規模な災害に見舞われるか分かりません。

また、少子化が加速する中、子供は、地域の担い手として重要であり、大切に育てていかなければなりません。今を生きる私たちが、次世代の担い手に、身を守る術をしっかりと伝えていくことが、未来に向けた安全安心の街づくりにつながるものと思っております。

戸塚消防署では、子どもたちへの防火・防災教育として、未就学児童には、火災予防ソング「それゆけ！キッズ消防隊」を作成し、保育園や幼稚園、イベント等で唄い踊ることで防火・防災の動機づけを行っています。また、火災予防だけでなく、地域における共助の大切さを込めたオリジナル物語「みんな森の仲間とオオカミのサイレン」の読み聞かせなども行っています。

今日、この戸塚区が平穏なことは、地域での声掛けや見守りなど、ご近所力のお陰ですが、これからも、消防署・消防団は、地域の皆様とともに、いつまでも安全で安心して暮らせる街を目指し、尽力して参りますので、ご協力をよろしく願います。



戸塚消防署 名取正暁署長

(2) 沿革

- ・明治34年(1901)に戸塚町公設消防組が設置される。
- ・昭和14年12月1日、戸塚町116番地に開設され神奈川県西戸部消防署戸塚消防出張所(消防車1台、隊員6名)が開設しました。
- ・昭和18年12月1日に、保土ヶ谷消防署戸塚出張所となりました。
- ・昭和23年3月7日に、保土ヶ谷消防署戸塚出張所から横浜市戸塚消防署となりました。この年の6月には、大正出張所が国立横浜病院(現在の国立横浜医療センター)の車庫を間借りし、業務を開始しました。
- ・昭和24年8月25日には、現在の位置より70メートルほど戸塚駅よりにあった旧庁舎(戸塚町4140番地)で、新生戸塚消防署が落成しました。職員32名、消防自動車6台の体制でした。
- ・昭和49年に現在の場所に庁舎を設立し、今日に至っています。

(3) 現在の戸塚消防署

平成29年4月現在の戸塚消防署の消防力は、消防署と他に、大正・吉田・鳥が丘・東戸塚・深谷の5つの消防出張所を配置し、職員189名、消防車両等39台(うち救急車4台)で、人口約27.7万人、面積35.7㎢と横浜市で最大エリアの戸塚の街全体の安全・安心を守っています。

戸塚消防署の管内には二つのJR駅があり、高層建築物が多いため、出張所としては珍しく、はしご消防車が配置されています。また、平成24年からは、鳥が丘消防出張所にテロ災害や毒劇物災害にも対応可能な大型除染車が配置されています。

(4) 川上地区内の消防出張所

○吉田消防出張所



- ・所在地 戸塚区吉田町 947-3
- ・昭和54年5月10日消防車1台で開設
- ・昭和55年11月6日吉田救急隊が配置
- ・昭和63年4月1日吉田救助隊が発足
- ・救助工作車1台、救急車1台、機動二輪車1台
- ◎受持区域
柏尾町、上柏尾町、舞岡町、南舞岡一丁目～四丁目、吉田町

○東戸塚消防出張所



- ・所在地 戸塚区川上町 87-10
- ・昭和58年6月11日消防車1台で開設
- ・昭和58年12月10日ミニ消防車が配置
- ・昭和61年8月7日機動二輪車配置
- ◎受持区域
秋葉町、上品濃、川上町、品濃町、平戸町、平戸町一丁目～五丁目、前田町

3. 川上地区消防団の歩み

消防組の組織

戸塚町に消防組ができたのは明治34年(1901)2月4日、柏尾の某家から出火して4世帯焼け、この飛び火で成正寺が焼けた。その後に水場(貯水池)を設けポンプなどを備えるようになった。

川上地区の公設消防組は大正15年(1926)10月15日に許可された。10月28日に齋藤萬治氏が組頭に任命された。

組織は他に組頭代理として小頭2人、小頭41人、消防手306人。

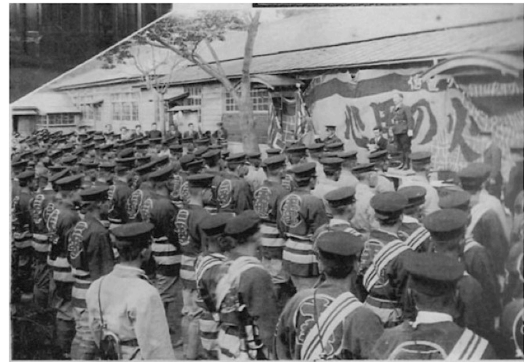
(1) 編成と区域

- ・第一部：上柏尾、第二部：下柏尾、第三部：舞岡、第四部：平戸、第五部：品濃、第六部：前山田・第七部：後山田

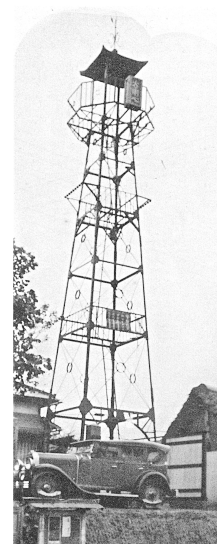
当時、井戸370、貯水池69、腕用ポンプ7台であった。

平時からポスターや演習訓練により、消防思想の普及・消火技術の向上を図った。毎年正月の出初式は赤堰（赤関橋付近）の河畔などで盛大に行なわれた。

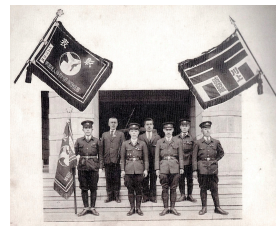
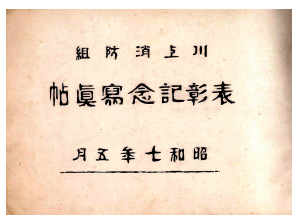
戦中は防空も加えて、昭和14年勅令「警防団令」により消防組は「警防団」と名称を変え、防空監視や空襲爆弾下の救護活動の任務も担うこととなった。敗戦に伴い、昭和22年勅令「消防団令」により、警防団という戦時体制の消防は「消防団」に改組となった。



大正15年結成の川上消防組



昭和5年
不動坂火の見櫓



昭和7年川上消防組 表彰記念写真集

(2) 現在の戸塚消防団の組織

◎消防団本部：1本部 分団数：7分団 班数：34班 平成30年現在
団員数：765人(内98人女性)

戸塚消防団の管轄区域

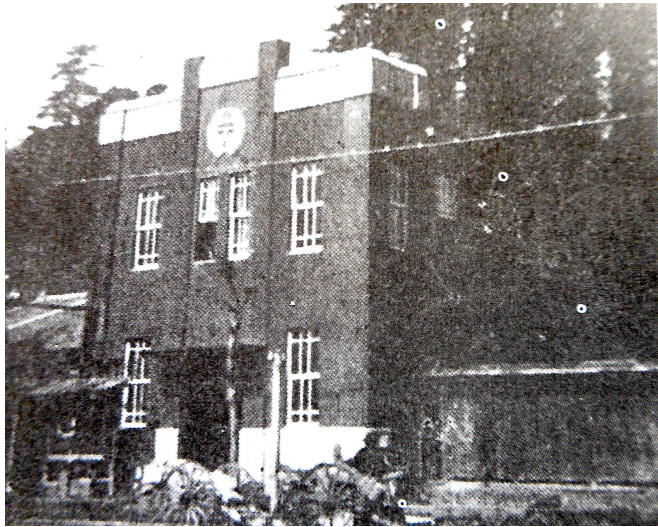
- ・ 第一分団 戸塚町・吉田町・矢部町・上矢部町・鳥が丘
- ・ 第二分団 上柏尾・柏尾町・舞岡町・南舞岡一丁目～四丁目
- ・ 第三分団 平戸一丁目～五丁目・平戸町・品濃町・上品濃・川上町・前田町・秋葉町
- ・ 第四分団 上矢部町・名瀬町
- ・ 第五分団 汲沢町・汲沢町一丁目～八丁目・深谷町・俣野町
- ・ 第六分団 原宿1丁目～五丁目・小雀町・東俣野町・影取町
- ・ 第七分団 上倉田町・下倉田町

引用：横浜市消防局 横浜市消防団 戸塚消防団HP

4. 川上地区郵便局の変遷

郵政サービスの窓口機関である郵便局については、明治4年(1870)の創業当初は三府(東京・京都・大坂)に政府直轄の「郵便役所」が設置され、東海道の各宿場駅には民間の協力で「郵便取扱所」が置かれました。

その後の明治政府は全国の主要都市に管轄の「郵便役所」を設置しましたが、財政が極めて不足していた当時の明治政府にとって、全国に「郵便役所」を設ける事は難しかったのです。そこで政府は、地元の名士(かつての庄屋や名主など)から自分達の土地と建物の一部を無償で提供してもらい、その代わりに



昭和初年の戸塚郵便局

彼らを「郵便取扱人」に任命して準官吏の身分を与え「公務」である郵便業務を請け負わせるという施策を取りました。この結果、地域の名士の屋敷を拠点とする「郵便取扱所」が短期間のうちに全国津々浦々まで広がり、我が国の郵便制度は急速に普及を遂げました。

明治8年(1875)すべての「郵便取扱所」は、「郵便局」へと改称されました。

引用：全国郵便局長会：郵便局の歴史とその役割より

(1) 郵便ポストはなぜ赤い？



昔のポスト

この形(たんこぶ)はイギリスから伝えられたもの

郵便ポストの色は、国により異なります。たとえば、ドイツは黄色、アメリカは青色。では、なぜ日本のポストは赤色なのか？

赤色になった理由は、『目立つのと、遠くからでもわかりやすいから』という簡単なものです。また、「日本はイギリスの郵便制度(ポストは赤)を導入した」ということも、きっかけの一つにあります。ちなみに、日本での最初の郵便ポストは、明治3年(1870)に設置された四角柱の黒い箱でした。夕方になると暗くて見にくいいため、赤色に変更したところ評判が良く、そのまま赤色の郵便ポストが普及していったものです。

(2) 川上地区内の郵便局

戸塚区が誕生した昭和14年頃、戸塚町は戸塚軽工業地区と呼ばれ、移住者も多く郊外の新興住宅地と考えられていました。こうした中で地区内で初の郵便局は、昭和15年柏尾町に開局した柏尾郵便局でした。

戦後になって、念願のJR東戸塚駅の開設、市営地下鉄開通に併せ舞岡駅の誕生などで人口も急激に増え、旧川上地区には順次6郵便局が開局しています。



旧川上地区の6郵便局

(3) 開局順の郵便局

① 横浜柏尾郵便局



スーパーもある町の中心でした。

昭和15年2月11日横浜市戸塚区柏尾町（現森紙業付近の上柏尾町7）に横浜柏尾郵便局は開局しました。

その当時は、周りは田んぼであり、のどかな田園風景であったようです。

その後、昭和42年5月に現在の場所である横浜市戸塚区上柏尾201に移転しました。

場所は道を挟んで旧川上小学校があり、その当時は郵便局の二階に、区役所出張所も設け、

寄稿 横浜柏尾郵便局長 中嶋 正美

② 横浜平戸郵便局



昭和38年2月1日、戸塚区平戸町1618番地31号に開局しました。

現在の住居表示は平戸二丁目25番13号です。

町内会は“平戸二丁目町内会”で、平戸平和連合町内会に加入しています。

平成7年11月27日、新築開局し現在に至っており、地域の皆さまの交流の拠点となり皆さまに愛され親しまれるように目指しています。

寄稿 横浜平戸郵便局長 中島 幸子

③ 横浜川上郵便局



J R 東戸塚駅から徒歩 10 分で、開局当時のはどかな環境の中、川上町に金融機関はなく川上町唯一の金融機関として地元の要請によって昭和 47 年 3 月 16 日付け戸塚区川上町 570-4 に開局をしました。

今でも川上町唯一の金融機関として川上町商店街も賑やかになり、川上町の中心地になりました。

J R 東戸塚駅が昭和 55 年 10 月に新駅開通すると駅前も整備され、人口や郵便局の取扱量も増えて、同駅には(西口・東口)にそれぞれに郵便局も開局されましたが、横浜川上郵便局は住宅地の真ただ中にある郵便局として、地域に愛され親しまれる郵便局で有り続けたいと考えています。

寄稿 横浜川上郵便局長 大山 哲嗣

④ 東戸塚駅西口郵便局



昭和 40 年代中頃から始まった東戸塚駅周辺の都市区画整備事業、数ある開発地区の中で東戸塚駅西口地区開発が完了したのが昭和 63 年 8 月 27 日であった。私が早くからこの土地の活用を模索していた頃、当時の区画整理代行業者から、郵便局を誘致したいとの話があり検討した結果、これから爆発的に増える地域住民の

インフラとして、ぜひとも公共施設として、1 階に特定郵便局を配した小型ビルの建設を決意しました。又、これからの人口増加を見据えて、集配業務を本局に一元した無集配特定郵便業務に重点を置く事としました。

すでに現在、約 8000 世帯(品濃町)を抱える一大ベッドタウンが誕生したのですから正に隔世の感があります。

- ・初代 竹間 博道
- ・二代目 橋本 勝幸
- ・三代目 竹田 修

寄稿 東戸塚駅西口郵便局長 竹田 修

⑤ 東戸塚駅東口郵便局

開局年月日：平成元年 2 月 16 日、品濃町 524-1。開発当初は、局周辺は建物などあまりなく、人口も少なかったので局員 3 名でスタートしました。

その後、J R 東戸塚駅の周辺開発事業が進むにつれ、商業施設高層マンション等が建設されて地域人口が急増し、利用者が増えたことによる窓口業務が大幅に急増し、利用者増加に併せ毎年局員を増員し今日に至っています。

開発のピークは過ぎましたが、現在もマンション等が建設されており、人口も増えている活気のあるエリアです。尚、郵便局隣地の白旗神社だけは開発前の面影が残っているところです。現在は社員、期間雇用社員含めて17名で業務を行っておりATM一日平均500人を超えるお客様に利用いただいて、利用者の多い郵便局になっています。



寄稿 東戸塚駅東口郵便局長 行川 慶一

⑥ 舞岡駅前郵便局

局竣工

平成2年7月局舎工事着手

平成3年2月完成

平成4年3月16日開局

歴代局長

初代 金子 昭 開局～平成11年10月28日

二代目 丸山 陸太郎～平成19年3月31日

三代目 佐藤 洋子 ～平成27年3月31日

四代目 加藤 満広 今日に至る



昭和60年3月14日横浜市営地下鉄ブルーライン1号線の舞岡駅が開業。その後の地域の核となる郵便局が開局したのは、10年後でした。

地域の方々の強い要望から舞岡駅前郵便局は戸塚区舞岡町2955番地に開局できました。駅から地上に出ると、すぐ東側に徒歩100m程の場所にあります。西側には道岐橋交差点がすぐであり、そこから舞岡公園までの散策コースが整備されています。

局の周辺は市街化調整区域で原風景そのままに豊かな水田や緑豊かな山林があります。当時は戸塚区舞岡町には金融機関はJA横浜舞岡支店しかなく、2番目の金融機関として、地元の強い要望を受けて開局ができました。

平成10年10月からは公社化を経て、現在は日本郵便株式会社として営業をしています。開局当時から地域の方々、近隣からの車利用者、また地下鉄、バス停すぐの利便性もあり開局より窓口業務の利用は増えております。

これからも地域に愛され、「安心」「安全」「信頼」をモットーに親しまれる郵便局となるようめざしてまいります。 寄稿 舞岡駅前郵便局長 加藤 満広

5. 川上地区内の地区センター

地区センターのあゆみ

昭和48年6月20日横浜市地区センター条例が公布されました。

地域住民が、自らの生活環境の向上のために自主的に活動し、スポーツ、レクリエーション、クラブ活動等を通じて相互の交流を深めることのできる場として、横浜市に地区センターが80ヶ所開設されました。

川上地区内では東戸塚・舞岡の2施設があって、戸塚区内6施設の内、東戸塚地区センターは平成元年10月に、戸塚区3番目の地区センターとして竣工されました。

また、舞岡地区センターは横浜市62番目、戸塚区5番目の地区センターとして平成10年5月に竣工されました。

それぞれ幼児から高齢者の方まで様々な活動の場に利用され、地域の交流拠点として着実に実績を挙げています。

(1) 東戸塚地区センター

東戸塚地区センターは、JR横須賀線東戸塚駅から徒歩4分と駅から近く、近隣の商業施設にも恵まれた場所に建つ「横浜市の公的施設」です。



当地区センターは戸塚区内では3番目の地区センターとして、平成元年10月設置されました。当地区センターの設置は「コンパクトシティ東戸塚街づくり」計画に基づいたものです。同じ敷地内へ地域の文化、福祉の利便施設群を配置する事として、駅に近い現在の場所へ環境が整備されました。

開設当初は、地域療育センター、地域活動ビューロー(現、地域ケアプラザ)、地区センターと三つの複合施設でしたが、川上保育園、東戸塚地域活動ホームひかりなどが加わり、現在では5施設が同じ敷地内にあります。

地区センター含め5施設は、毎年連携して10月第4土曜日に施設毎に「まつり」を開催し、多くの来所者で賑わいます。

地区センターは、地域の皆様の仲間づくりやふれあい交流の場所となっています。また、お仲間の学習活動や話し合い等に、低料金でご利用いただける会議室の他料理室、体育室もあり、皆様のご利用をお待ちしています。

施設概要

住所 戸塚区川上町 4-4

TEL 045-825-1161

設備 1階： ロビー、図書コーナー、プレイルーム、グループ室、体育室
(シャワー有り)、事務室

2階： 和室、中会議室、小会議室、多目的室、工芸室、料理室、
娯楽コーナー、

屋外： 駐車場、駐輪場

(2) 舞岡地区センター

舞岡、柏尾地区住民の要望を受けて、戸塚区5番目の地区センターとして、平成10年5月31日に開所しました。記念式典は前日約500名の来賓で挙行されました。



「記念セレモニー」の様子



20周年感謝祭を飾るセンター

施設の特徴は、敷地面積が広く建物が南向きで、日当りを考慮した各部屋、音楽室の配置、2階から体育館が見渡せる窓の配置、雨水の遊水池を兼ねた広場です。

地下鉄舞岡駅から歩いて3分と近く、緑豊かな自然に囲まれた開放感ある施設です。

施設概要

住所 戸塚区舞岡町 3020

TEL 045-824-1915

設備 地下：体育室(シャワー室有り)、音楽室

1階：ロビー、図書コーナー、プレイルーム、グループ室、事務室

2階：和室、中会議室、小会議室、工芸室、娯楽コーナー、料理室

屋外：駐車場、駐輪場

平成29年10月28日 20周年記念感謝祭！！

ステージ団体20団体、体験展示コーナー14団体、模擬店12団体で盛大に開催されました。出店の餅つき、牛丼、コロッケ、革細工などは好評でした。ハロウィンイベントも併せ開催し、来場者は700人でした。開催に関わっていただきました地域、学校、諸団体の皆様に感謝し、これからも地域交流をより深めてまいります。



舞岡中学校吹奏楽部演奏



戸塚区泉栄民謡連合会津
軽三味線の演奏



舞岡吟詠クラブの皆さん

引用：舞岡地区センターのブログ

6. 川上地区内の地域ケアプラザ

川上地区範囲内には、3か所の地域ケアプラザが設置されています。

地域ケアプラザとは、横浜市独自の社会福祉施設として、おおよそ中学校区に一つあり、平成29年9月現在で市内に137ヶ所、戸塚区内には12ヶ所設置されています。

それぞれの地域ケアプラザは、「誰もがいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせるように、地域の保健・福祉を総合的に提供する」ことを目的に、高齢者のみならず、障がいのある方、子育て支援など、幅広い業務を行っています。

(1) 東戸塚地域ケアプラザ

東戸塚地域ケアプラザは平成6年4月に開所し、今年で25年目となりました。



開所の3年ほど前には「東戸塚ビューロー」（地域交流棟）が設置されており、地域交流の拠点として障がい児童の自主・支援活動や配食グループなど様々な団体が活動されており、ケアプラザ開所前より地域交流事業は始まっていました。

そのような背景・歴史もあり、ボランティアグループの活動が熱心な地域でもあります。

また、退職後の男性が集う場やボランティアグループが早くから先駆的に立ち上がっているのも特徴の一つです。

「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会を みんなで作りだす」という法人の活動理念のもと、とつかハートプランを旗印に「お互い様」の意識が育まれる地域づくりを実践するとともに、地域住民の「困りごと」を受けとめ、「つなぐ」意識をもって地域の皆さんとともに今後も取り組んでまいります。

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会
横浜市東戸塚地域ケアプラザ
住所 戸塚区川上町 4-4
TEL 045-826-0925
所長 室井 慶之

(2) 平戸地域ケアプラザ

平戸地域ケアプラザは、平成9年10月1日に戸塚区で5館目の地域ケアプラザとして開所しました。

平戸の地域は、旧東海道沿いの歴史的な史跡が点在し、果樹園や農地などの緑が広がる環境豊かな地域です。また、お正月の風物詩、箱根駅伝では、地域の交通安全協会の方々が沿道の安全を守り駅伝を支えています。



自治会・町内会では、夏祭りや防災訓練、もちつき大会等の定例行事のほか、高齢者の食事会や地域の清掃といった福祉活動も盛んに行われており、住民同士の交流の機会となっています。当施設は、地域の皆様に支えられ、平成30年で開所から21周年目を迎える節目の年となりました。

これまでの21年間の歩みは、連合町内会の地域の皆様をはじめ、施設利用者、関係諸機関の皆様方の温かいご支援とご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

今後も、地域に根差した施設運営を心がけ、皆様のご期待に沿えるように邁進してまいりますので、これからも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 聖ヒルダ会
横浜市平戸地域ケアプラザ
住所 戸塚区平戸 2-33-57
TEL 045-825-3462
所長 福永 健

(3) 舞岡柏尾地域ケアプラザ

舞岡柏尾地域ケアプラザは、平成12年6月1日に開所いたしました。

現在は、舞岡地区連合会及び柏尾地区連合町内会（それぞれ全域）を担当しています。

開所5年目から開催している「舞柏ケアプラザまつり」には、近年1,000名を超える地域の皆様にご参加いただけるようになり、このまちの皆様を支えていただいていることを実感しています。

舞岡地区では「舞岡川鯉のぼりフェスタ」、柏尾地区では「インディアカ大会」など地域の皆様の魅力的な活動が盛んです。

「ケアプラザも地域の一員として共に活動する」機会に恵まれていることに、改めて感謝申し上げます。

当地域ケアプラザでは、「このまちでこのまちの皆様とともに」という理念



第13回ケアプラザまつり

を掲げています。今後とも、素敵なこのまちの皆様と共に歩んでいきたいと考えています。



第10回子どもフェスティバル

社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会
横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ
住所 戸塚区舞岡町 3705-10
TEL 045-827-0371
所長 尾形 創史

7. 川上地区内の農業協同組合

川上地区における農業協同組合の発祥は、大正3年(1913)9月舞岡の長福寺にて発足された「有限責任舞岡販売購買組合」と考えられます。

第二次世界大戦後に支配したGHQ(連合軍最高司令官総司令部)が昭和22年に農業組合法を制定し、全国に農業協同組合が設立されていきました。その母体となったのが昭和18年に「産業組合」と「農会」が合併した「農業会」でありました。

農協は協同組合としての性格を「産業組合」[明治33年(1900)法制化]から受け継ぎ、一般的には農協の前身は「産業組合」であるとされていますが、現在横浜農協が行っている営農指導や農政活動は、「農会」から受け継いだものでした。

横浜市南西部において農協は集落単位に設立されておりましたが、相互扶助の精神のもとに組合員農家の農業経営と生活を守り、更により良い地域社会を築くことを目的として昭和44年3月に13農協(本郷・豊田・川上・大正・中田・和泉・飯田・中川・原・瀬谷・横浜南部・港南・磯子)が合併し、「横浜南農業協同組合」が設立されました。それから34年の歳月を経て、横浜市の5農協(横浜北・横浜南・横浜中央・保土ヶ谷・鶴見)が平成15年4月に合併し、「横浜農業組合」が設立されました。

さらに平成27年4月に青葉区の田奈農協と合併して横浜市全域を管轄とする支店数50の国内トップクラスの農業協同組合となりました。

(1) 横浜農協川上支店

昭和23年5月15日に組合員数421名にて設立総会を開催して、川上農業協同組合が設立されました。事務所は上柏尾町202番地に構えて営業を開始しました。

農家で収穫した米や麦を保管する倉庫は前田町85番地に設置していました。

昭和26年に倉庫を改修して事務所を同場所に移転し、前田町85番地が川上農業協同組合の本拠地となり、現在でも店舗を建替えて営業を続けています。



昭和49年増改築後の川上支所

昭和36年10月の台風による大雨で事務所・倉庫が浸水し、業務に支障を生じて営業がストップした事態になりました。このため翌年の昭和37年に木造平屋の倉庫を取り壊し鉄筋コンクリート造りの店舗を建設しました。しかし、この時代はまだ冷暖房設備が無く夏ともなれば舗装道路（国道1号線）の照り返しと自動車の排気音に当時の職員は悩まされたそうです。

冷暖房設備がいつ設置されたかは不明ですが、昭和49年11月に増築工事が完了しています。

平成15年10月の台風により柏尾川が氾濫し、事務所は床上まで浸水したため店舗内の電子機器や書類が水没してしまいました。土地所有者である蓮久寺様及び関係各位のご厚意により借地を購入し、平成17年7月より建築工事に着手し平成18年4月10日に現在の建物が完成し、地域の皆様に安心してご利用いただいております。

横浜農協50店舗の中で国道1号線沿いの店舗は、川上支店のみであり正月の箱根駅伝が店舗前を通過する唯一の店舗です。

寄稿 川上支店長 佐藤 雅之

(2) 横浜農協舞岡支店

協同組合の歴史の古い舞岡地区では、大正3年(1914)9月に長福寺で発足させた「有限責任舞岡販売購買組合」が、昭和23年に川上農業協同組合・舞岡出張所となり、昭和44年3月の合併により「横浜南農業協同組合・川上支所舞岡出張所」となりました。

その後、昭和51年11月に組合員待望の新事務所が桜堂に完成し、昭和58年3月横浜南農業協同組合・舞岡支店に改称され、現在は横浜農業協同組合・舞岡支店として都市化が進んだ横浜市内にあって良好な田園景観を有する場所に位置しております。

平成2年に横浜市から農業振興地域・農用地区域の景観保全と地域の活性化を目的に「横浜ふるさと村」に指定を受けました。

「横浜ふるさと村」は、市民の皆様が自然や農業、農村文化に親しみながら理解を深めてもらうために自然と農業環境を生かし、農業生産施設や研修施設等を整備した自然空間です。

また、四季折々の生産物をPRする各種イベントや収穫体験、直売所を通して地域の皆様との交流も積極的に行っています。地区の周囲はすべて住宅地に囲まれていますが多くは山林をはじめ豊かな自然が残っております。

寄稿 舞岡支店長 大賀 章光

8. 川上地区内の認可保育所

施設数：川上地区には公立保育園2施設、私立保育園21施設があります。

掲載：2018年11月現在

引用：横浜市 子ども青少年局 ヨコハマはびねすぽっと
保育方針は、一部のみ抜粋し記載してあります。

こんにちわ・ありがとうえん 運営：株式会社 アイ・ハート福祉サービス

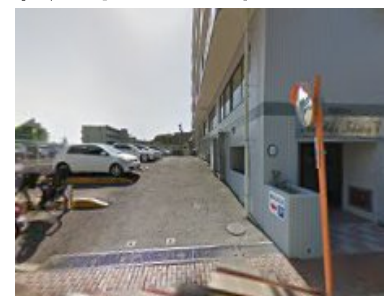


住所：横浜市戸塚区品濃町 1466-1
最寄駅：相鉄バス「品信町」バス停下車、徒歩5分
電話：045-443-6588
保育方針：

- ・正しい判断ができる人間性豊かな子ども
- ・自立心があり、創造性が豊かで協調性のある子ども
- ・挨拶ができる子ども

東戸塚こども園

運営：株式会社 子どもの森



住所：横浜市戸塚区品濃町 563-8
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚」下車、徒歩10分
電話：045-823-9221
保育方針：当園は、子どもの快適な環境で十分な発育を促すと共に仕事が忙しい中、家事・育児に頑張っておられる保護者の方をできるだけサポートしていきたいとの願いから生まれました。

ハートの森保育園

運営：社会福祉法人 龍美



住所：横浜市戸塚区品濃町 1024
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚駅」下車、東口から徒歩13分
電話：045-825-8080
保育方針：人として生きていくための力を生活の中で自然に身に付けることができるように配慮します。

アートチャイルドケア東戸塚 運営：アートチャイルドケア 株式会社



住所：横浜市戸塚区品濃町 557-1
常盤ビル1階
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚駅」下車、東口から徒歩9分
電話：045-821-4051
保育方針：生命を大切に育てます。心身ともにたくましい子を育てます。

つくし保育園東戸塚



運営：社会福祉法人 秀峰会

住所：横浜市戸塚区品濃町 545-30
クライテリア東戸塚 1階
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚駅」下車、徒歩5分
電話：045-825-1555
保育方針：人に対する愛情や信頼感を基に、思いやりの心を育てます。子ども同士の遊びを通して生きる力を育てます。

YMCA東とつか保育園



運営：社会福祉法人 横浜YMCA福祉会

住所：横浜市戸塚区上品濃 1-15
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚」下車、徒歩10分
電話：045-820-5588
保育方針：子ども達の主体性を大切に、一人ひとりが興味を示した遊びの中で話したり、問い掛けたりしながら学ぶ動機を与えていきます。

にじいろ保育園川上町



運営：ライクアカデミー 株式会社

住所：横浜市戸塚区川上町 88-1 東京ビル 2F
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚駅」下車、徒歩3分
電話：045-438-8700
保育方針：「こども理念」のびやかに育て だいちの芽
3つの愛を育む保育
みとめ愛、みつめ愛、ひびき愛

岩崎学園東戸塚保育園



運営：学校法人 岩崎学園

住所：横浜市戸塚区品濃町 550-9
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚駅」下車、東口から徒歩5分
電話：045-826-7737
保育方針：私たち保育士は常に子どもに寄り添い子どもから学ぶ姿勢で接していきます。子供たちが自ら発想し、楽しむ遊びは生きていくうえで、基本となる強い心と丈夫な身体を作ります。

にじいろ保育園東戸塚



運営：ライクアカデミー 株式会社

住所：横浜市戸塚区川上町 85-1N&Fビル 2 1F
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚駅」下車、徒歩5分
電話：045-308-1144
保育方針：「こども理念」のびやかに育て だいちの芽
3つの愛を育む保育
みとめ愛、みつめ愛、ひびき愛

横浜市立川上保育園



住所 : 横浜市戸塚区川上町 4-9
最寄駅 : JR横須賀線「東戸塚駅」下車、東口から徒歩5分
電話 : 045-822-8987
保育方針 : 園目標は「心身ともにすこやかな子ども」「思いやりのある子ども」「友達といきいきと遊ぶ子ども」です。

ニチイキッズ東戸塚保育園

運営 : 株式会社 ニチイ学館



住所 : 横浜市戸塚区品濃町 527-1
最寄駅 : JR横須賀線「東戸塚駅」下車、東口直ぐ
電話 : 045-820-5131
保育方針 : おもいっきり遊ぶ、おもいっきり学ぶ。わたしたちは「やさしく・つよく生き抜く力」を育みます。

にじいろ保育園品濃町

運営 : ライクアカデミー 株式会社



住所 : 横浜市戸塚区品濃町 513-9
最寄駅 : JR横須賀線「東戸塚駅」下車、東口から徒歩5分
電話 : 045-825-6464
保育方針 : 「こども理念」のびやかに育て だいちの芽3つの愛を育む保育
みとめ愛、みつめ愛、ひびき愛。

ちゃいれっく東戸塚駅前保育園

運営 : 株式会社 プロケア



住所 : 横浜市戸塚区品濃町 510-4
まんへい東戸塚ビル1F
最寄駅 : JR横須賀線「東戸塚」下車、徒歩5分
電話 : 045-828-3920
保育方針 : 多彩な保育ニーズに応え、安心安全に預けられる保育子どもたち、一人一人の個性を尊重し長所を伸ばす保育

ちゃいれっく前田町保育園

運営 : 株式会社 プロケア



住所 : 横浜市戸塚区前田町 504-33
最寄駅 : JR横須賀線「東戸塚」下車、徒歩15分
電話 : 045-829-1305
保育方針 : 多彩な保育ニーズに応え、安心安全に預けられる保育子どもたち、一人一人の個性を尊重し長所を伸ばす保育

うみのくに保育園とつか

運営：株式会社 空のはね



住所：横浜市戸塚区川上町 464-15 翠峯番館
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚駅」下車、
徒歩12分
電話：045-410-6690
保育方針：子供たちの成長やきもちに寄り添う保育、
ご家庭と地域がつながる保育を提供します。

明日葉保育園東戸塚

運営：葉隠勇進 株式会社



住所：横浜市戸塚区品濃町 147-1
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚駅」下車、東口から
徒歩10分
電話：045-825-5414
保育方針：明日葉の花言葉は「旺盛な活動力」
私たちは、子どもが毎日を豊かにすごせる
保育を通じて、明日をたくましく生きる力
を育てたいと思います。

キッズパートナー東戸塚

運営：ケアパートナー 株式会社



住所：横浜市戸塚区品濃町 838-5
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚」下車、徒歩5分
電話：045-827-2331
保育方針：子育て支援を通じて、活気ある
「元気なみらい」創りに貢献します。

銀杏保育園

運営：社会福祉法人 くすの樹会



住所：横浜市戸塚区秋葉町 147-1
最寄駅：JR横須賀線「東戸塚駅」
神奈川中央バス「秋葉」バス停下車、すぐ
電話：045-443-6677
保育方針：くすの樹会のこだわり
興味津々・毎日元気！！わたしたちは自分で
考え、自分で選び、主体的に行動する子ども
に育てます。

秋葉保育園

運営：社会福祉法人 顕真会



住所：横浜市戸塚区秋葉町 520-88
最寄駅：神奈川中央バス「富士橋」バス停下車、
徒歩6分
電話：045-812-2551
保育方針：安全を基本にして保護者と協同し健康な
身体づくりをすすめる。

ことは保育園



運営：社会福祉法人 七葉会

住所：横浜市戸塚区柏尾町 742
最寄駅：神奈川中央バス「柏尾」バス停下車、徒歩 3 分
電話：045-824-8407
保育方針：望ましい未来を作り出す自立有る自由の子どもを育てる。
成り立ち：昭和 52 年 5 月 理事長斉藤忠久、園長斉藤恵により設立、今年 42 年目の伝統ある保育園です。

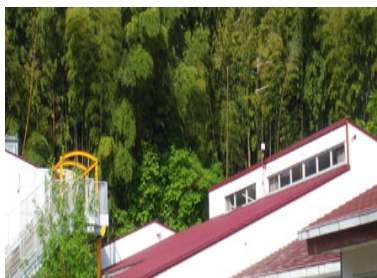
柏尾スマイル保育園



運営：社会福祉法人 豊会

住所：横浜市戸塚区柏尾町 909-1
最寄駅：J R「戸塚」「東戸塚駅」神奈川中央バス「ポーラ前」バス停下車、徒歩 1 分
電話：045-820-3016
保育方針：保育園では同年齢、異年齢のお友達とふれあう中で心に響く多くの体験を積み重ね、人格形成の基礎を培います。

わかば保育園



運営：社会福祉法人 あらぐさ会

住所：横浜市戸塚区舞岡町 992
最寄駅：市営地下鉄「舞岡駅」下車、徒歩 10 分
電話：045-823-1439
保育方針：子どもたちは、仲間と一緒に心と身体を十分に使って遊びます。大きい子は小さな子への優しい心づかいと、小さい子はお兄ちゃん、お姉ちゃんへのあこがれで育ちます。

メモリー保育園



運営：(NPO)メモリーの会

住所：横浜市戸塚区舞岡町 647-4
最寄駅：市営地下鉄「舞岡駅」下車、徒歩 10 分
電話：045-823-0006
保育方針：山と川に囲まれた自然あふれる舞岡の四季を感じ、明るく元気にのびのびと過ごし、子どもたちの笑顔を引き出しながら、たくましく生きる力を養います。

横浜市立舞岡保育園



住所：横浜市戸塚区舞岡町 1956
最寄駅：江ノ電バス「舞岡台循環」バス停「公園前」下車、徒歩 1 分
電話：045-822-5855
保育方針：豊かな自然環境の中で経験豊かな保育士たちが皆さんのお子さんを、子どもの育ちにとって今大切なことは何かを理解し保育を進めていきます。

9. 川上地区内の幼稚園

- 本書記載にあたり
1. 保育方針は、一部のみ抜粋し記載しています。
 2. 引用は、社団法人横浜市幼稚園協会ネット情報を利用し、ネット掲載順にまとめて記載しています。
保育方針は、一部のみ抜粋し記載しています。

平戸幼稚園

運営：学校法人 横浜平成学園



許可年月日：昭和40年3月1日。開園は4月1日
住所：横浜市戸塚区平戸3丁目21-22
最寄駅：横須賀線「東戸塚駅」東口下車、市営バス境木中学校行き「境木中学校」バス停下車徒歩5分
電話：045-822-7777
教育方針：「恵まれた自然環境を生かし、豊富な活動・経験をとおして、あらゆる可能性をもつ幼児の心身の発達を助長し、明るく、元気な幼児を育てる」をもとに現在の幼児像の特性と年齢に応じた教育計画を組み総合的に教育する。

秋葉幼稚園

運営：学校法人 本橋学園



許可年月日：昭和31年3月31日(昭和29年10月1日開園)
住所：横浜市戸塚区秋葉町342
最寄駅：戸塚駅より緑園都市行きに乗り「秋葉三叉路」バス停下車、徒歩3分
電話：045-811-0215
教育方針：幼児期に大切な基本的な生活習慣を育て、健全な心身の基礎を培うようにする。
友達づくりに重点を置き、自然の中で伸び伸びと思ふ存分遊ばせ、人への愛情や信頼感を育て、道徳性の芽生えを培うようにする。

舞岡幼稚園

運営：学校法人 相澤学園



許可年月日：昭和45年2月7日
住所：横浜市戸塚区舞岡町3557-4
最寄駅：東海道、横須賀線「戸塚駅」東口下車、22番神奈川中央バス「舞岡」バス停終点下車すぐ。市営地下鉄「舞岡駅」下車、徒歩15分
電話：045-822-3400
教育方針：大切な幼児期に土や水を使って、豊富な遊びや実体験を通して自ら感じとり行動しながら生きる力を養う。表現活動を通し自己を素直に出して模倣する楽しさを体験することでやさしさや感受性と創造性を豊かにする。

